

# 二セ電話詐欺の犯人に聞いてみた

## どのようにアポ電をかけていた？

- 電話をかけていた時間帯は？
  - ・ 7:00～20:00頃まで、一日中かけていた。
  - ・ 平日だけでなく、休日も電話をかけていた。
- 電話をかける頻度は？
  - ・ 多いときで1日200件くらい電話をかけていた。
  - ・ だませそうと感じた人には、短期間で何度もかけていた。
  - ・ 最終段階まで進んだら、相談する機会や考える時間を与えないよう、お金をだまし取るまで電話を繋いだままにしていた。
- 留守番電話だった場合の対応は？
  - ・ メッセージを残さず電話を切るようにしていた。

## どんなときにあきらめる？

- ・ 話を聞いてくれなかったり、すぐに電話を切られるとき。
- ・ 電話を切られたときは、諦めてそれ以上電話をかけない。
- ・ 話を聞いてくれる限り、こちらから電話を切らずに粘ってだますようにしていた。

## だますためにどのような準備をしていた？

- ・ 質問に即答できるよう、想定問答を用意していた。
- ・ 話が矛盾しないよう、相手に話したことはメモをとっていた。
- ・ 実在する電話番号を教えるように言うと、信用してくれることが多かった。
- ・ 失敗したときの録音音声聞き返して次に活かしていた。
- ・ 信用させるため、警察手帳や書類の画像を用意していた。

## どんな人がだましやすい？

- 「だましやすい人」の特徴は？
  - ・ 年齢性別問わず、質問してくれる人、話を聞いてくれる人。
  - ・ 相談相手のいない人や一人暮らしの人。
  - ・ 着信を見て折り返してくる人。
  - ・ +000（国際電話）などからの着信を不審に思わない人。
- 「この人はだませる」と感じる瞬間は？
  - ・ 相手が色々質問してきたり、話をよく聞いてくれたとき。
  - ・ 素直に個人情報を教えてくれたとき。



## 犯人の話から分かったこと

- ・ 犯人は昼夜問わず電話をかけている
- ・ 留守番電話に切り替わると電話を切断
- ・ 話を聞いてくれる人＝だますことができる人
- ・ 犯人も日々「だまし」のテクニックを磨いている
- ・ 犯人は長時間電話を繋いだままにする

## 大切な財産を守るための防犯対策

留守番電話設定による電話に出ない対策  
国際電話番号の着信休止手続による対策  
国際電話番号の着信規制が可能なアプリの利用  
知らない電話番号には折り返さない



## 警察官をかたるオレオレ詐欺被害にあわないためのポイント

- 警察が電話で「捜査対象になっている」と伝えることは絶対でない
- 電話をかけてきた警察官の所属や名前を確認すること
- 相手から教えられた電話番号には折り返さないこと
- 警察がSNSで連絡したり、警察手帳や逮捕状の画像を送ることは絶対でない

電話で「捜査対象」と言われたら110番！

- 電話はすべて留守番電話設定
- 知らない電話番号には折り返さない